



深田久弥

# 山の文化館だより

令和3年  
春号

深田久弥 山の文化館  
〒921-0067  
石川県加賀市大聖寺春場町十八  
TEL 〇七六(一)七二一三三一一  
FAX 〇七六(一)七二一一一八一

## 深田久弥の追憶

深田久弥没後五十年となる今年、当文化館では二月二十七日より五月六日まで、追悼展を開いています。

亡くなられた当時、各方面から寄せられた数々の哀悼の文章から、久弥氏の人柄がうかがえます。

久弥自身の作品はもちろん、展示できなかったものもたくさんあります。

そこで『深田久弥の追憶』としていち早く出版されたものの中から一文をご紹介します。

同郷の医師であり交友が深かった稲坂謙三氏の追悼文よりの抜粋です。

「・・・その頃私は芦峠の平蔵等人夫を連れて、テントで北アルプスの山々を登ったり、縦走したりして居ったから、中学三、四年の君は、私の山の話を目を輝かせて聞いて居た。郷里では富士写ヶ岳、鞍掛山、大日山等は学生大勢で登ったが、菅倉、藤倉、小富士、蟹の目山、火燈山等は今でもあまり人が登らないが、君と私と二人で登った山々である。

君は、昔に変わらず帰郷する度に私を訪ねて楽しく語って下さった。唯酒を飲んで、

自然を語り、世事を論じ君の文学や芸術などの話を聞くのがまことに楽しかった。

東京の御家で終日飲んだこともあり、「謙ちゃん、謙ちゃん」と語りかつ飲んでくれた。

善い事を共にした友との交わりは清い。悪い事を共にした友との交わりは深い。志、行を共にした交わりは清く深く永い。深田さん

とは同郷で青年時代、山登りを共にしただけで、学校も職業も趣味も違い、私の俳句や文章は常に君から落第点をつけられて居た。君の寛容と忍耐とが長い交わりを続けて下さったのだろう。

相識る幾ど六十年  
山に登り海に浴し常に提携す  
一朝忽然夢幻に帰す  
恭しく香を焚いて墓前に哭す

昭和四十六年七月益十五日

この稲坂氏の漢詩が哀悼を物語るように、

多くの方々もまた、久弥氏の突然の別れに深い哀しみ覚えたことでした。

## 俳句の色紙額を飾る

俳人深田九山が中心となり立ち上げた「はつしほ句会」の歴代会長の色紙が展示されました。深田久弥と「はつしほ」は切っても切れない関係です。深田は、金沢へ、そして東京へと転居しても、投稿したり、俳句の指導を続けていました。そして、はつしほ句会は一回目の命日から五十年続けて九山忌の俳句会を開催しています。

注：「はつしほ」は「はつしお」の旧仮名づかいです。



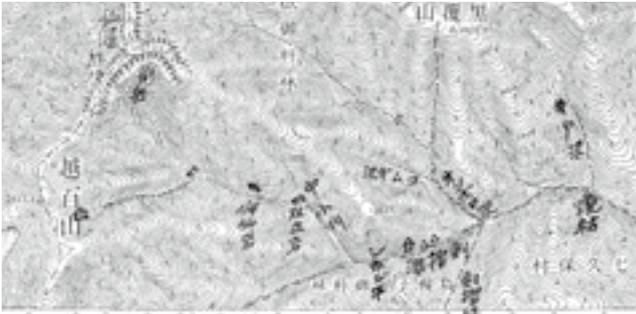
## 久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その13

題名には赤鉛筆とあるが赤いラインはほとんどない。与田切川の谷筋と中央アルプスの主稜線に多くの山や谷などの名前がペンで書き込んである。地勢図飯田の二番「赤穂」である。この地形図は、中央アルプスの中心部がほとんど含まれている。木曾駒ヶ岳から越百山までである。中央アルプスについて久弥は「僕等も滅多に中央アルプスなどとは呼ばない。発音が仰々しくて面映ゆいだ。．．．僕は木曾駒と呼んでいる。」と「木曾山脈縦走」の中で語っている。

これらの書込みに対応する山行はと調べると、昭和十一年六月二十三、二十四日の伊那町～木曾駒ヶ岳～上松町のもの、そして、昭和十三年八月二十一日から二十四日の越百山～木曾駒ヶ岳の木曾山脈縦走の二つであった。

作品としては、『日本百名山』の「木曾駒ヶ岳」は勿論であるが、前者は、『山岳展望』の「木曾駒ヶ岳」後者は、『山の幸』の「木曾山脈縦走」がある。



## この一冊

### 『九山集』

ここに、「九山集」と名付けられた一冊の私家版の本がある。装幀は、深田久弥編集の『富士山』、『高原』、『峠』の三部作とそっくりの布製である。中身は、深田の小説の初出雑誌のページを集めたものであり、これを作ったのは中馬敏隆氏である。学生時代から集めていた雑誌を纏めて一冊の本にし、後年久弥さんにサインしてもらった。この間の事情は、昭和四十六年五月号「岳人」の追悼特集にある中馬さんの追悼文の中にも書かれている。中馬氏のこのような仕事の延長上に、『深田久弥・山の文学全集』十二巻にわたる作品の解題執筆がある。また、『人物書誌大系14・深田久弥』の執筆内容にも深く関わっておられた。これらのことから、中馬敏隆氏の久弥研究の奥深さを知ることが出来る。

この本は、深田久弥没後五十年関連として、当時の初出雑誌と共に資料文献室に展示している。



## 久弥祭

本年も富士写ヶ岳の麓、九谷タムの広場で行われます。特別な趣向もありませんが、深田久弥没後五十年の節目の開催です。  
日時：令和三年 四月二十五日 午前八時より  
場所：九谷タム広場（加賀市枯淵町）  
内容：献酒、献花、献句、朗読

### ● 間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。  
午後一時半より三時  
（聴講無料）  
深田久弥山の文化館聴山房他

5月16日(日) 演題：深田先生の文学について  
講師：門 玲子氏

6月27日(日) 演題：未定  
講師：須貝 亨氏

### ● 読書会のお話し

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。  
（参加無料）

四月 十六日（金）

『日本百名山』より「四阿山」

五月 二十一日（金）

『日本百名山』より「早池峰山」

六月 十八日（金）

題材未定

● 場所：深田久弥山の文化館  
● 時間：午後一時半より三時

\* 詳細はホームページをご覧ください

### 編集後記

ワクチン接種を待ち、コロナ終息を願い、また春が巡ってきました。マスクを使いながら自然に触れたいと思います。